

加藤恆忠

かとう  
つねただ

政治家。

安政二年二月二十一日伊豫國生れ、大正十

二年二月二十一日歿（八五―一九三三）。舊姓大原、幼名忠二郎。號多根

居士、恆瀨大、恆瀨、恆瀨迂人、拓、拓川、拓川居士、拓川市隱、病

忠、絶食居士、藤忠、觀山第二子、醉忠等。松山藩儒大原觀山の三男、

加藤氏を繼ぐ。司法省法學校中退。明治十六年フランス留學、同地で

ハレ館勤務、同書記官のちブルギーハ使。四十年退官後、衆議院議

員、貴族院議員、松山市長歴任。正岡子規の叔父。

著書、大原有恆著『蕉鹿窩遺稿』（編、大正十一年四月五日刊）、

『拓川集』

（拓川會編、

隨筆篇一）

二冊・附和

五年一月二十五日、日記

等。

篇・六年一月二十一日、拾遺篇、准徳篇・八年九月十日拓川會）等。